

地域計画

策定年月日	令和7年3月28日
更新年月日	令和8年2月27日 (第2回)
目標年度	令和12年度
市町村名 (市町村コード)	岩手県奥州市 03215
地域名 (地域内農業集落名)	胆沢 出店地区 (出店)

注:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域計画の区域の状況

区域内の農用地等面積(農業上の利用が行われる農用地等の区域)	41.6 ha
① 農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積	39.0 ha
② 田の面積	39.0 ha
③ 畑の面積(果樹、茶等を含む)	2.5 ha
④ 区域内において、規模縮小などの意向のある農地面積の合計	— ha
⑤ 区域内において、今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計	5.7 ha
(参考) 区域内における75才以上の農業者の農地面積の合計	4.1 ha
うち後継者不在の農業者の農地面積の合計	— ha
(備考)	

注1:①については、農業振興地域担当部局と調整の上、記載してください。

2:②及び③については、農業委員会の農地台帳の面積(現況地目)に基づき記載してください。

3:④については、規模縮小又は離農の意向のある農地面積を記載してください。

4:⑤については、区域内に特定することができない場合には、引き受ける意向のあるすべての農地面積を記載の上、備考欄にその旨記載してください。

5:(参考)の区域内における75才以上の農業者の農地面積等については、できる限り記載するように努めてください。

6:「区域内の農用地等面積」に遊休農地が含まれている場合には、備考欄にその面積を記載してください。

(2) 地域農業の現状及び課題

- ・ほ場整備事業「若柳中部地区」関連により、「農事組合法人でだな」が設立されており、地域の9割以上の農地が法人へ集積されている。
- ・今後も法人で耕作が継続されることと、地域でも考えている。
- ・法人構成員の年齢が上がった時の事が心配され、作業人員の確保が課題となっている。

【地域の基礎的データ】

- ・主な生産品目…水稻、大豆 など

(3) 地域における農業の将来の在り方(作物の生産や栽培方法については、必須記載事項)

引き続き、(2)に掲げる主な生産品目に取り組みながら、次の内容について取り組んでいく。

- ・今後も法人を中心とし、地域の営農を進めていく。
- ・その中で、新規法人構成員を取り込みながら、継続・安定的な経営を行っていくことを目指す。

2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標

(1)農用地の効率的かつ総合的な利用に関する方針			
・地域内の法人への集積・集約を基本に、農作業の効率化につながる農地の集約を進める。			
(2)担い手(効率的かつ安定的な経営を営む者)に対する農用地の集積に関する目標			
現状の集積率	64.4	%	将来の目標とする集積率 84.0 %
(3)農用地の集団化(集約化)に関する目標			
・話し合いを継続し、法人の作業の効率化につながるよう、集約化を進めていく。			

3 農業者及び区域内の関係者が2の目標を達成するためとるべき必要な措置

(1)農用地の集積、集団化の取組
・現在、法人の契約農地が令和7年度で期間満了となるため、再契約を行い、引き続き集積・集約を進めていく。
(2)農地中間管理機構の活用方法
・既に、農地中間管理機構を通じた契約を行っている。
(3)基盤整備事業への取組
・現在、基盤整備事業実施中。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組
・現在、法人構成員のほかに、30～50代及び学生等にも声掛けを行い、期間雇用で作業を行っている。長いスパンで担い手の育成に繋がることを期待している。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の取組

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組内容を記載してください)

<input type="checkbox"/>	①鳥獣被害防止対策	<input checked="" type="checkbox"/>	②有機・減農薬・減肥料	<input type="checkbox"/>	③スマート農業	<input type="checkbox"/>	④輸出	<input type="checkbox"/>	⑤果樹等
<input type="checkbox"/>	⑥燃料・資源作物等	<input checked="" type="checkbox"/>	⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/>	⑧農業用施設	<input type="checkbox"/>	⑨耕畜連携	<input type="checkbox"/>	⑩その他

【選択した上記の取組内容】

②大豆作付後に水稲作付を行うブロックローテーションを実施することにより、肥料の削減を行っている。
 ⑦耕作放棄地を出さないためにも、土地の出し手・受け手の交流会を行うことで、地域の現状を把握することを検討している。

4 地域内の農業を担う者一覧(目標地図に位置付ける者)

	属性	農業を担う者 (氏名・名称)	現状			10年後 (目標年度:令和 12 年度)				
			経営作目等	経営面積	作業受託 面積	経営作目等	経営面積	作業受託 面積	目標地図上 の表示	備考
1	認農			24.1 ha	0.0 ha		1.4 ha	0.0 ha	担い手A	
2	認農			1.4 ha	0.0 ha		0.0 ha	0.0 ha	担い手B	
3	認農			0.6 ha	0.0 ha		0.0 ha	0.0 ha	担い手C	
4	認農			0.4 ha	0.0 ha		0.0 ha	0.0 ha	担い手D	
5	認農			0.3 ha	0.0 ha		0.0 ha	0.0 ha	担い手E	
6	利用者			2.7 ha	0.0 ha		1.6 ha	0.0 ha	利用者	
7	利用者			0.4 ha	0.0 ha		0.4 ha	0.0 ha	利用者	
8	利用者			0.2 ha	0.0 ha		0.2 ha	0.0 ha	利用者	
9	利用者			0.6 ha	0.0 ha		0.2 ha	0.0 ha	利用者	
10	利用者			0.1 ha	0.0 ha		0.1 ha	0.0 ha	利用者	
11	利用者			0.1 ha	0.0 ha		0.1 ha	0.0 ha	利用者	
12	利用者			0.1 ha	0.0 ha		0.1 ha	0.0 ha	利用者	
13	利用者			0.1 ha	0.0 ha		0.1 ha	0.0 ha	利用者	
14	利用者			0.1 ha	0.0 ha		0.1 ha	0.0 ha	利用者	
15	利用者			0.1 ha	0.0 ha		0.1 ha	0.0 ha	利用者	
16	利用者			0.1 ha	0.0 ha		0.1 ha	0.0 ha	利用者	
17	利用者			0.0 ha	0.0 ha		0.0 ha	0.0 ha	利用者	
18	利用者			0.0 ha	0.0 ha		0.0 ha	0.0 ha	利用者	
19	利用者			0.0 ha	0.0 ha		0.0 ha	0.0 ha	利用者	
20	利用者			0.7 ha	0.0 ha		0.0 ha	0.0 ha	利用者	
21	利用者			0.1 ha	0.0 ha		0.0 ha	0.0 ha	利用者	
22	認農			ha	0.0 ha		ha	33.5 ha	P3	若柳中部